令和4年度　　園評価書

園番号　54　　園名　　横砂こども園

Ⅰ　経営の重点に関わること

評価段階（A：よくできている　B：概ねできている、C：あまりできていない、D：できていない）

1　教育・保育目標	2　重点目標	評価指標	園説明	自己評価 前期→後期	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
やさしく たくましい子	好きをいっぱい 見つけよう	・好きな遊びをじっくり楽しみ、心が動く豊かな体験をしている	子どもの興味に合わせた環境づくりや意図的な関わりを通し、子どもが好きなことを見つけじっくり遊びこんだり挑戦する姿が見られた。また、友達や異年齢児と関ることで遊びの幅が広がり日々の遊びがつながりはじめている。	A	A	・子ども達が自由にやりたいことを行うことができている ・節分の様子から子どもが自分が苦手なこと(自信がないこと)も素直に伝えることができるような保育者との関係性がわかる。また、解決に向かえるよう保育者が一緒に考えたり、子ども達の案をすくい上げ実現することで自己発揮ができていると感じる	・学年(発達)の抑えと共に異年齢での関わりや集団遊びの年間計画をたて意図的に行っていく ・可動遊具の使い方やリスクを保育者が把握し、約束等は子どもとの対話の中で一緒に作っていく ・子ども理解を深め、今つけたい力を意識しながら保育者がどこまで一緒に行いどこからは見守るかを考え関わるようにする ・子どもの姿や保育者の意図を確認できる様な職員同士の話し合いの機会を作っていく(ケース会議、サポートプランを見合う、コーディネーターを中心とした研修会等)
		・安心して自己発揮、自己表出しながら、友達と一緒に笑いながら育ち合っている	安心できる環境の中で自己表現し、好きな遊びや活動など様々な経験の中で自信が芽生え自分の思いを伝えようとする姿が増えた。友達と一緒が楽しいと感じ互いにいい影響を受けながら育っている。	A	A		
		・全身を使って遊び、様々なことを「やってみたい・やってみよう」とする子どもに育っている	意図的に異年齢や集団遊びを行い、可動遊具を取り入れたことで友達と一緒に考え組み合わせて色々なことにチャレンジし身体を使って遊んでいる。	A	A		

Ⅱ　各領域に関わること

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価 前期→後期	関係者評価	園関係者評価委員から	改善策（来年度の具体的な取組目標等）
1 こども園における教育及び保育	(1)0歳から小学校就学前までの一貫した教育及び保育	・一人一人の発達や経験の差を把握、理解し、それに応じたかかわりや援助を行いながら、教育保育を進めている	個々の発達に合わせて育みたい力や願いを持ち、声掛けのタイミングや仕方等を意識して丁寧に関わった。職員間で話し合い個別支援ができている。	A	A	・職員が子どもや保護者を支えていることや保育の一生懸命さが伝わってくる ・保護者の立場から、園では子ども達に様々な経験をさせてくれていることそれが子どもの成長へつながっていることがわかる。また個々に色々な対応してもらいありがたい ・洪水の体験から、防災については様々な想定が考えられるため、話し合いをくり返しおこない備えていく必要がある。子ども達も散歩等を通し地域を知る機会にするとよい ・子どもが少ない地域ではあるが、子どもの声が聞こえると安心する。ハロウィンで地域を回ったように、これからも地域と触れ合い機会を持て行って欲しい ・子どもの事件がニュースで取り上げられているが、来年度も子育てトーク・人形劇・花育教室などできること一緒に行い今後も地域との連携していきたい ・今後も引き続き暖かな横砂こども園であってほしい	・子どもにつけたい力を付ける為に保育者がどう関わるか(関わりと見守り）を意識する ・基本的な生活習慣が身に着くよう学年ごとの指標をつくる ・全職員が参加できる会議の工夫をすることで情報の共有を図る
	(2)一日の生活の連続性及びリズムの多様性への配慮	・ゆったりとした雰囲気の中で、一人一人の生活リズムを整え、安心、安定して過ごせる為の援助がなされている	個の姿やその日の様子(体調･思い)、家庭環境に配慮し保育できている。少人数でゆったりと安心できる場(ほーむ横砂)で、生活のリズムを整え安定して過ごしている。	A	A		・クラスの枠を超え職員が子ども一人ひとりを見守る事を意識する ・必要に応じた面談の実施や教育時間について保護者に伝えていく
	(3)環境を通して行う教育及び保育	・子どもの興味や関心を基に、様々な「ひと・もの・こと」に触れながら、豊かな経験を重ねる為の環境作りをしている	園庭の環境改善を行ったことで子ども同士の自然な関わりが増え、遊びの幅が広がった。また、片づけの意識が変わり“昨日の続き”が見えやすくなった。ビーチコーミングでは製作･リサイクル･地域に触れ、子ども達の“自分ができることを”という思いにつながっている。クラスや行事にテーマがあり、様々の経験をしている。	A	A		・子どもが主体的に室内外の遊びのつながりが持てる環境を作る ・明日につながる環境作りを引きづ付き行い、遊びの変化する度に話し合いを重ねていく
2 安全管理・指導	(1)事故防止・防災	・安全、安心な環境維持の為安全点検ヒアリハットの収集をし園内の環境整備にを行う　　・非常時における意識や安全な行動を身につけ自ら行動できるように　計画的に避難訓練や不審者訓練を実施している	避難時の行動は訓練の積み重ねによりだいぶ身についてきている。会議等で課題の話し合いが出来ているので続けていきたい。台風･断水･浸水･停電などで体験したことは今後の非常時に活かしていきたい。ヒヤリハットを忘れずすぐに出せるように、用紙を手元に置きささいなことでも記録するよう共通認識した。	B	B		・安全チェックで出た場所(室内外)の改善と職員の共有ができるよう、改善したらチェック表に加筆し最終確認を行う ・ヒヤリハットは速やかに記録し、朝の打ち合わせや5時から会議等で報告し合う ・災害や緊急時の状況に合わせ避難ができるよう、訓練後に経路等についての再確認を行い図に残し職員で周知する
3 保健管理・指導	(1)健康教育の充実	・子どもが自ら考え身体を動かすことができるように環境を作りを行う ・様々な食育活動や飼育栽培を通して、食に関する興味や関心を育てている	様々な可動遊具がある事で自分達で考え組み立てる姿が多く見られ、身体を動かしている。食育の日に保護者の力を借りる新たな試みができ食への関心が広まった。クッキングや栽培等が食への興味が食べる意欲につながった。	B	A		・保育者が水掛けする姿を見せたり、当番を作るなど子どもが栽培に興味を持てるようなきっかけづくりをする ・年間の計画で毎月確認する
4 特別支援教育 ・保育	(1)支援体制づくりの推進	・一人一人の特性や個性を認め支援計画を立て、職員間で共有しそれに応じた支援体制づくりを行っている	コーディネーターによるABAを用いたケース会議をおこない職員間で支援方法を考えたり、個の具体的な様子を周知することができた。支援計画の共有を行い、職員全体で関わる体制ができている。	B	B		・サポート会議で職員間でサポートプランを読み合い、考え合う ・サポートプランの書き方や支援方法など支援に必要な知識を高めるための園内研修を行う
5 組織運営	(1)組織体制の充実	・自分の役割に責任をもち、組織として協力し合いながら運営をすすめ、同僚と温かい関係を育んでいる	5時から会議で保育について語ったり、分掌を中心に協力して保育準備を整えたりする時間が持てている。その他の時間も子どもの話を自然にする温かいよい雰囲気･関係ができている。	B	A		・来年度も引き続き5時から会議を実施する(5時に集まることを各自が意識する)
6 研　修	(1)研修体制の充実	・研修テーマ「“好き”が繋がる環境構成」横砂地区に触れながらを実践し、語りの機会から学び合う組織作りをしている	公開保育(事後研修)で保育の動画を用いる等、研修の仕方が工夫され、多角的な意見交換や外部講師の助言もあり回を重ねるたびに子ども理解が深まった。また、各自が学びを保育に活かしている。園庭環境を話し合ったり、5時から会議で環境整備をしたり、職員間で協力しながら実践の中で学び合っている。	B	A		・年度当初に研修テーマや進め方についての確認をすることで職員間の共通理解を図る ・5時会議に各学年の週案を持ち寄り園庭について話をする(週1回)。各保育室を職員間で見合い室内環境の自主研修を行う。また、公開保育時、写真を用いた環境研修を行う
7 教育・保育環境整備	(1)教育・保育環境の充実	・季節に合った遊びや発達に必要な体験が得られるような安心・安全な環境が、園内外に用意されている	子どもの興味関心や保育者の思いに沿った環境作りがされ、季節やその時の遊びごとに環境の見直しや準備できている。毎日の園庭の安全チェック、クラスごとのチェックの他に園全体での安全チェックに機会を行っている。	B	B		・遊びの構想から月間におろしていく。月にできたことできなかったことを記録する ・金曜日を目安にするなど意識して子どもと一緒に片付けをしていく
8 家庭との連携 ・協力	(1)家庭教育への支援機能の充実	・お便り、クラスだより、ドキメンテーション等を園から発信し教育保育の理解を促す・保護者面談の他に、育児支援を必要とする家庭や、個別支援を必要とする家庭との面談を随時行う	写真入りのおたよりと保育者から伝える子どもの姿と照らし合わせることができわかりやすい。保護者の楽しみにつながり嬉しいとの声も聞かれた。玄関におたよりボードが移動し、保護者の目に留まりやすくなった。必要に応じ個別面談や保護者を巻き込んだ食育活動等を通して、子どもの姿や園での生活を知ってもらい、理解を深める機会となっている。	B	A		・掲示物(写真を含む)を行事や活動に応じ行っているが週1回は必ず行う。遊びの様子や成長の様子を引き続き伝えていきたい ・保護者にみてもらえるような各クラスのテラス、事務室前の掲示の工夫をする。また掲示する時間帯の検討をする ・保護者に保育・教育の意図を理解してもらえる様引き続きおたよりや口頭で引き続き伝えていく
9 近隣の学校との連携	(1)近隣の園との連携の推進	・近隣園との交流が計画的に実施されている（辻・由比中央・入山・清沢） ・公開保育を行い、学びや生活の様子を伝えながら、外部との交流を図っている	公開保育に他園(蒲原西部･川原･飯田南･西久保･)の職員が参加し客観的に保育を見たり意見してもらい参考になった。小学校の地域開放日を職員が参観した。コロナ禍ではあるが、細心の注意を払いながらできることは行っている。台風後の休園に伴い興津北こども園の受け入れをおこなった。	A	A		・今年度の交流を定着させていく ・西久保こども園、辻こども園など園庭で遊べる機会を作る ・年長児が行っている交流の様子を園だより等を通し保護者に伝え知ってもらう
１０ 地域との連携	(1)信頼される園づくりの推進	・奉納相撲大会、花育教室、地域探検・ビーチコーミングなど、横砂地域の方々との力を借りて様々な交流や活動を通して、こども園だけではできない経験をしている	ハロウィンで地域や自治会館をへ子ども達の製作を持ってい行って喜んでもらったり、花育教室で交流したり、勤労感謝訪問でお世話になった方へ感謝を伝えたりする機会をもてた。散歩で挨拶を交わしたり、地域の方も園のことを気にかけてくれる様子がわかる。	B	B		・ハロウィン訪問、花育教室、げんきっことおしゃべりサロンの協賛等、地域の交流を引き続き行う ・勤労感謝、訓練で交番との交流も考えて行きたい